

第 60 回北海道歯科技工学術大会 顔面補綴（エピテーゼ）

秋田大学医学部附属病院歯科口腔外科・歯科技工士（工学博士）

田 中 清 志



講 演 要 旨

顔面エピテーゼは、顎顔面領域に用いるエピテーゼの事で、腫瘍、火傷、怪我、先天性などによる顔面部の欠損の補綴を目的としたものであり形成外科、口腔外科などで治療および研究開発が行われている。

顔面エピテーゼには、鼻エピテーゼ、耳エピテーゼなどがあり製作は義肢装具士、歯科技工士が行う事が多い。現在、日本ではエピテーゼは医療行為として認められておらず装身具扱いであり、保険対象外となる。その影響もあり近年まで日本では欧米に比べ症例数が少なく認知度は低かったが、歯科技工士を養成する広島大学歯学部口腔保健学科で顔面エピテーゼのカリキュラムを導入され技術者の養成が始まるなど広がりを見せつつあり、法の整備が求められている。今回、秋田大学医学部附属病院歯科口腔外科で製作した顔面補綴（エピテーゼ）、その他について症例を供覧しながらその製作方法を簡単に紹介する。